

# ハヶ岳シングルスマッチ

## 第 1 章 総 則

### 第1条 (目 的)

この規則はシングルスマッチをスピード、スリルに富んだものとし、ダブルスマッチの近代化への一助とすることを目的とする。

## 第 2 章 テニス場

### 第2条 (テニス場)

### 第3条 (コート及びアウトコート)

### 第4条 (コート及びアウトコートのサーフェース)

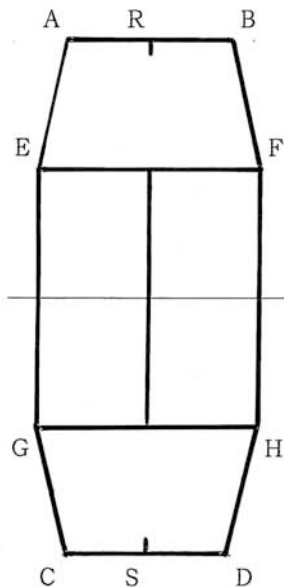
(財) 日本ソフトテニス連盟  
ダブルスマッチの競技規則  
に同じ。

### 第5条 (コート)

(財) 日本ソフトテニス連盟シングルスマッチ競技規則第2条(コート)  
においてベースライン8.23mを6.00mに変更する。

### 第6条 (コートラインの名称と寸法)

コートの区画及びラインの名称と寸法は、つぎのとおりとする。



|            |           |         |
|------------|-----------|---------|
| ベースライン     | A B ; C D | 6.00 m  |
| サービスライン    | E F ; G H | 8.23 m  |
| サービスサイドライン | E G ; F H | 12.80 m |
| ベースライン間    | R S       | 23.77 m |

### [ 狙 い ]

ベースラインを絞ることによる積極的  
プレーへの誘導、ラリー連続性の向上。

- 第 7 条 (コートラインの幅)
- 第 8 条 (アウトコート)
- 第 9 条 (ネットポスト)
- 第 10 条 (ネットポストの位置)
- 第 11 条 (審判台)

(財) 日本ソフトテニス連盟  
ダブルスマッチ競技規則に同じ。

### 第 3 章 用 具

- 第 12 条 (ネット)
- 第 13 条 (ボール)
- 第 14 条 (ラケット)

(財) 日本ソフトテニス連盟  
ダブルスマッチ競技規則に同じ。

### 第 4 章 競 技

- 第 15 条 (プレーヤーの心得)

(財) 日本ソフトテニス連盟  
ダブルスマッチ競技規則に同じ。

- 第 16 条 (マッチ)

プレーヤーは競技規則に従い、フェアプレーに終始しなければならない。

- 1) マッチは 1 人対 1 人とし、各プレーヤーは 1 本のラケットを用いて競技を行なう。
- 2) ボールは相対するプレーヤーで、交互に打たなければならない。

- 第 17 条 (ゲームの回数)

(財) 日本ソフトテニス連盟  
ダブルスマッチ競技規則に同じ。

- 第 18 条 (ゲームの勝敗)

- 1) 全てのゲームにおいて 4 ポイント以上先取で勝ちとする。
- 2) 3 オールとなった場合はデュースとする、双方が 1 ポイント取った場合デュースアゲンとせず 次の 1 ポイント先取した方を勝ちとする。

(ノーアドバンテージ方式)

#### [ 解 説 ]

- 1 競技のスピードとスリルを追求し、1 ポイントの比重を高めることを狙い デュースを 1 回のみとした
- 2 4 ポイント以上と記したのは、第 27 条 (サービス時の失ポイント)  
第 30 条 (レシーブ時の失ポイント)  
第 46 条 (インセンティブポイント)

により、1 プレイで 2 ポイントの得失点の場合があるため。

- (例) 3 ポイント取って、次のポイントをフォレー (スウマッシュ) で取った場合 5 ポイントとなる。

第19条 (マッチの勝敗)

第20条 (サービス)

第21条 (サービスの時期)

第22条 (サーバー及びレシーバー)

(財) 日本ソフトテニス連盟

ダブルスマッチ競技規則に同じ。

第23条 (サービスをする位置)

サービスはベースライン先端及びセンターマークそれぞれの仮想延長線の間で、ベースラインの外で行なう。

第24条 (サービスをするプレーヤー)

- 1) サービスはネットに向かってセンターマークの右側から始め、右左交互に対角線上の相手方サービスコートに行なう。
- 2) ファイナルゲームにおいては2ポイント毎にサービスチェンジを行なう。

第25条 (サービスのフォールト)

第26条 (サービスのレット)

(財) 日本ソフトテニス連盟

ダブルスマッチ競技規則に同じ。

第27条 (サービス時の失ポイント)

逆クロスでのサービスがダブルフォルトとなった場合は、2ポイントの失点とする。  
(ペナルティーポイント)

順クロスでのダブルフォルトは1ポイントの失点とする。

[ 角 評 説 ]

ダブルフォルト (特に逆クロス) は、あってはならないプレーでありペナルティーとし、2ポイントの失点とした。

第28条 (レシーブ)

第29条 (レシーブの順序)

(財) 日本ソフトテニス連盟

ダブルスマッチ競技規則に同じ。

第30条 (レシーブ時の失ポイント)

逆クロスでのレシーブを有効返球できなかった場合、2ポイントの失点とする。  
(ペナルティーポイント)

順クロスでのレシーブミスは1ポイントの失点とする。

[ 角 評 説 ]

逆クロスでのレシーブミスは、サービスのダブルフォルト同様、あってはならないプレーであり、ペナルティーとして2ポイントの失点とした。

第31条 (サービス・レシーブ  
又はサイドの選択)

(財)日本ソフトテニス連盟  
ダブルスマッチ競技規則に同じ。

第32条 (サービス・レシーブ  
及びサイドのチェンジ)

- 1) サービス・レシーブのチェンジは、ファイナルゲームを除き1ゲームを終る毎に行なう。
- 2) ファイナルゲームは、2ポイント毎にサービス・レシーブのチェンジを行なう。
- 3) ファイナルゲームにおいては、ダブルフォルトによる  
レシーブミス                      2ポイント  
フォレー・スマッシュ              2ポイント  
によりサービス・レシーブのチェンジを行なう。
- 4) サイドのチェンジは、奇数ゲームの終了毎に行ない、ファイナルゲームではサイドのチェンジを行なはない。

第33条 (サービス順序・サイドの誤り)

第40条 (意義申立て等の禁止)

第34条 (判定)

第41条 (警告)

第35条 (インプレーにおける失ポイント)

第42条 (失格)

第36条 (ノーカウント)

第43条 (提訴)

第37条 (タイム)

第44条 (マッチの中止と再開)

第38条 (禁止事項)

第45条 (規則上の疑義)

第39条 (棄権)

第33条～第45条 (財)日本ソフトテニス連盟  
ダブルスマッチ競技規則に同じ。

第46条 (インセンティブポイント)      追加条項

フォレー・スマッシュした球を相手が有効返球できなかった場合  
2ポイントの得点とする。

[ 角 評 説 ]

積極的プレーに対してはインセンティブを与え、あるまじきプレー  
(ダブルフォルト・レシーブミス) に対してはペナルティーを課し  
マッチのスピード化とスリル・技術の向上を図る。